

第 1 回磯子区地域福祉保健計画策定委員会

「各委員からひとこと」の記録

平成 16 年 10 月 4 日
磯子区役所 702 会議室

1. 質問

- ・スケジュールは 16, 17 年に計画策定となっている。実現は 18 年以降とあるが、すべて 18 年から実施するのか？ 緊急を要するものは平成 18 年を待たずに実施すべきでは。
- ・手がつけられるもの、できるものは進めるほうがよい。
この計画の大切なことは、その実現にある。できるところから実施を進める。
ヒントがあれば、2 年を待たずに事業化する。
- ・問題点を提起していきたい。
- ・地区ごとにアクションをおこしていきたい。

2. 委員の皆さんのひとこと

(武安さん)

- ・この地域福祉保険計画は、横浜市からのトップダウンではない、区が中心であることが新しい。

(安部さん)

- ・地域に帰って、地域のグループの声を吸い上げることが役目と考えている。

(桜井さん)

- ・産院から墓場までの幅広い計画である。私は高齢者を対象に少し考えてみたい。

(峰さん)

- ・年 2 回は出てきてくれるが、必ずしも訪問を喜ばない高齢者。何かの形で友愛活動をもっと P R し、毎月 1 回の訪問を喜ばれるようにしたい。

(渡辺さん)

- ・障害は少ないが、支援を要する人を支えられるようにしたい。南部療育の 100 人中 2、3 人が 5、6 人になり、現在 7% は通常のクラスに在籍している。通常クラスの子どもたちを増やしたい。地域の中でどう支援すればいいか。

- ・障害児家族の望みは、

送迎支援

長期休暇支援

毎日の放課後支援 これらを地域でできれば。

(平野さん)

- ・障害者の家族としては、グループホームが多くあればいいと望んでいる。経済的な条件などがきびしい。親が生きているうちに入れるように望んでいる。

(関野さん)

- ・「ボランティアは、地域で自分の足元から」ではないか。
- ・支えあいは高齢者に偏りがち。子どもは高齢者の活力にもなる。対象を絞らずに全部が支えあうようにしたい。

(堀さん)

- ・地域でできることを計画して策定したい。行政、社協、そして地域を加えて、協働による策定と実現。
- ・子どもが大事なので、教育についても入れてほしい。

(堤さん)

- ・商人に何ができるか。自分のしていることで喜んでもらえるのは、独居老人の「安心電話」。独居老人が何かをしてほしい時に、助けを求める時に手助けができるようにしたい。

(中里さん)

- ・下からの現実を踏まえ、その現実をどう解決していくか、若い世代、中学生の参加と働きに期待する。中学時代の体験は子どもに大きな影響を与える。
- ・学校の現実として障害学級の子どもが千葉県まで行ってしまったことがある。社会の中でどのように生きていくのか、ネグレクトを自覚してもらうまでが大変。
- ・学校で終わらない問題。社会とつながる学校の情報を発信していきたい。

(福土さん)

- ・青少年の健全育成と福祉の接点が不明確。いずれ子どもたちも大人になる。子どもたちに福祉を伝えることが役目と考える。

(上田さん)

- ・支えあい、ヘルスメイト、給食を食べない子どもたちのことなど、いろいろかかわっている。それらを通して対象者が意識的に変わってきていると感じている。
- ・今の65歳は元気。給食会で、食事を作っている人と食べに来る人の区別がつかない。「高いものを食べたい」という声もある。

(時任さん)

- ・生涯学級連絡会。歴史の会で活動している。
- ・定年退職した男性65歳は地域で役に立ちたいと考えている。しかし、福祉への参画はまだの人が多い。
- ・新たな世界が広がる、いろいろな人がいろいろな力を発揮できる場をつくりたい。
- ・ファシリテータとしても役に立ちたい。

(戸田さん)

- ・活動の中から見えてきたものを発信する。磯子区全体の区づくりを地域の方々の話を聞

いて考えたい。計画倒れにならないものをつくりたい。

(中村さん)

- ・社会資源が豊富であるが、連携するシステムが貧弱という現状。福祉情報の共有を。
- ・どんな提案をしても担い手である市民に受け入れられなければ意味がない。
- ・情報の受発信の仕組みを組み立てる。

(西岡さん)

- ・白書によると地域行事の参加が15%となっている。地域で健康づくりの意識が低い。趣味に走ってしまい地域貢献をしてくれない。地域までおりてきて、行動を起こすところまでいかない。行政のバックアップで、磯子の健康づくりをやりたい。

(小山内さん)

- ・高齢者も若い人も孤独な人が増えている。地域の人を育てようと講座を開いている。
- ・ボランティアに手を上げる若い人が多く応募してきている。期待できる。

(佐々さん)

- ・権利擁護がキーワード。安心して暮らせる磯子区を。難しいがひとつひとつ具体的なプログラムをたてていきたい。
- ・ニーズをいかにピックアップできるか。特に声の出てきにくい、小さいところからのニーズを。地区別懇談会に期待している。
- ・策定委員会は6回より多いほうがいいのでは。実行可能なニーズをプログラム化していくために6回でいいのか。

(八原さん)

- ・引きこもりの子ども、親のための電話相談をしている。相談を受け、代理人として伝えていきたい。
- ・子ども時代をいかに幸せに暮らすかが大事。予算をとって福祉局と引きこもりホットラインを持った。
- ・行政と医療機関が協働して相談窓口をもつ動き。
- ・人資源が重要。コーディネータがいると人が集まる。
- ・子どもは、親から虐待されると住む場所がなくなる。安心して地域で暮らすためには地域の役割が重要。

(西尾先生)

- ・子どもなどのドメスティックバイオレンスの問題。これを解決するために、地域のパワー(資源)と、埋もれている地域のニーズを掘りおこしていく。
- ・6回で充分かという問題は気になる。